

魚津市立大町小学校



ふるさととともに

本校は、明治6年魚津町奉行所御貸屋を校舎として創立され、校名を「魚津一番小学」とよび、翌7年には新川県庁跡へ移し明理小学校と改称しました。ほどなく児童数の増加により明治12年に魚津城址(現在地)に新校舎を建設し、以後、校舎は幾たびか建て替えられ、大町小学校の校名は昭和22年からよぶようになりました。古くから政治・経済・文化の中心として発展してきた歴史的に由緒ある地であり、教育においても常に先駆的存在であったことから、校歌にも「明日の日本を擔ひて立たん」と歌われています。児童玄関前には初代校長、阿波加修造先生の大きな石碑があり、その教え「不言実行」の明理の心は、1万4千人あまりの卒業生に着実に受け継がれています。

本校には世界的名画43点(複製画)が飾られている「明理美術館」、魚津城に関するジオラマや資料が並ぶ「大町歴史館」と称する教室があります。地域の人たちの手で子供たちの学習や憩いの場にと設置されました。また、総合的な学習の時間にはふるさと教育の一環として、子どもたちが縦割り班で地域を巡り、体験や会話を通して地域のよさを学ぶ「縦割り班校区学習」が継続されています。子どもたちを「地域の宝」として見守る人の心は温かく、地域ぐるみで育てています。

閉校を前に「学校へ泊まろう」やNHK夏期巡回ラジオ体操等の事業を「ありがとう 144年」を合い言葉に、学校と家庭、地域が一体となって進めてきました。子どもたちが楽しみながら参画することで、自分を育ててくれているふるさとへの愛着と喜びを一層深め、将来、たくましく生きるための心の支えとなると信じています。

魚津市立村木小学校



村木小学校を心のふるさととして

本校は、明治42年1月に魚津尋常小学校として創立され、村木尋常小学校、村木国民学校と校名を変えながら、昭和22年に村木小学校となり現在に至っています。実に1万人近くの卒業生があり、地域はもとより国内外で活躍する人材も多数輩出しています。

昭和31年の魚津大火の折には校舎が焼失し、新校舎ができるまで児童は市内の他の学校や施設で別々に学習をしなければならなかったという悲しい過去もありますが、昭和63年及び平成元年に新築された現校舎は、白亜の外観や、内部に工夫された空間を有するもので、児童や地域の誇りとなっています。

本校の教育目標は「心身ともに健康で、豊かな人間性と創造力をもち、ねばり強く実践する児童の育成」ですが、昭和45年にこの教育目標の副題として「やりぬこう 強く 正しく 手をとって」が設定され、たくましく実践力をもった児童の育成に継続して取り組んできました。

特色ある教育活動としては、平成29年度にユネスコ無形文化遺産に登録された「たてもん祭り」を始めとして、「蝶六踊り」「鴨川とサケ」「魚津の水産業」等の地域の行事や特色を教材化し、地域の方々の協力を得て行う学習を積極的に展開してきたことが挙げられます。また、地域を流れる鴨川の清掃や地域を中心として行われる祭礼後の清掃等の美化活動、高齢者や身近な人々との心の触れ合いを深める様々な福祉・ボランティア活動を通して、地域社会の一員としての所属感を高め、ふるさとを愛する心の育成に努めてきました。

平成30年3月末で閉校となりますが、心のふるさととしての村木小学校の伝統と誇りを大切にしながら、4月に開校するよつば小学校でも新たな歴史をつくってほしいと願っています。